

包括名	活動内容	第2層協議会
<p>東南部</p>	<p>① 東南部お役立ち手帳(介護制度版・脳トレ版)の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制度版は、具体的な介護サービス内容、介護施設の利用条件や料金、減免制度の説明、東南部圏域の特性を盛り込んだ地域の情報パンフレットを作成する。相談者や各事業所(居宅10事業所・訪問介護8事業所、通所介護15事業所、訪問リハビリ2事業所、通所リハビリ4事業所) ・介護支援専門員等が利用しやすい情報も取り入れる。介護タクシー業者の一覧等 ・健康版は、「体に、いいことしてみませんか?」と題した冊子を第1層コーディネーターの監修により作成。高齢者がコロナのため自宅で過ごす時間が増大することを考慮し、体操の方法や脳トレを楽しめるものを企画する。体操教室担当でも同様の冊子を発行するため、コーディネーター版は発行回数を減少 ・制度版と脳トレ版共に、警察、消防、保健所、北海道等の高齢者向けリーフレットを掲載する。 <p>② 第2層生活支援コーディネーター意見交換会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(案)令和3年5月31日(月)15:00~16:30 消防講堂 緊急事態宣言中のため延期 ・銭函桂岡地区では、訪問介護・通所介護サービス等の介護サービス提供が慢性的に困難な現状にあるため、専門職(第1層生活支援コーディネーター、小樽市デイサービスセンター連絡協議会長、小樽市訪問介護事業所連絡協議会長)と意見交換を行う。 <p>③ 居宅介護支援事業所個別訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内では、訪問介護や通所介護サービス等の介護サービス提供が困難になってきているため、介護支援専門員が抱えるニーズ把握を行う。コロナの影響を踏まえてアンケート形式にてニーズ把握を行う。 ・居宅介護支援事業所を対象に、個別の事業所を対象として勉強会を開催する。模擬地域ケア個別会議(自立支援型)を開催して資質の向上を図る。モデル的に居宅朝里温泉・この葉を予定。 ・障害相談支援事業所との連携(障害を持った方が65歳に到達すると、利用サービスが障害サービスから介護保険サービスに移行する。この場合、利用制度の運用条件の違いにより、スムーズな移行が行えるように地域ケア個別会議や勉強会を開催する) <p>④ 各勉強会や懇談会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響を考慮しながら地域懇談会、茶話会、認知症カフェ、民生委員協議会等に参加し、情報交換や各種講座を実施する。 ・情報交換とコーディネーター周知 ・朝里地区発足予定の「くさのネ」に参加 <p>朝里・新光地区では、NPO法人塩梅屋を中心として、塩梅屋まるしえにおいて、事例検討会を実施。これは「ソーシャルワーク実践研究会」とされ、朝里地区の住民と専門職(居宅ほほえみ・居宅ハートケア・東南部包</p>	<p>・桂岡地区では、毎月第3日曜日 10:00~14:00の十万坪会館で開催されている町内会主催の異世代交流会に参加して、意見交換や実態把握を行う。 (コロナの影響を考慮して検討)</p> <p>・前年度まで計画にあった小樽・朝里まちづくりの会月例会や各事業に参加し、本事業の周知と地域活動の実態把握する件に関しては、包括職員がまちづくりの会正会員として参加・活動しているため計画に盛り込まないこととする。</p> <p>※第2層協議体の設置のための事前協議</p> <p>朝里地区と銭函地区を一体化した第2層協議体構成について、活動が活発な地域(桂岡町会・くさのネ構成団体)と意見交換を行う。</p>

	<p>括職員等)の共同により、勉強会を開催してメンバー(地域)が抱える困難事例等を協議していた。今後は、勉強会に止まらず、「断らない相談」を目標として、地域住民自治会役員、地域の福祉事業所、民生児童委員・東南部地域包括支援センター等が参加して「くさのネ」の発足に向けて協議に参加する(月1回)。最終的な目標について、構成は、登録メンバーである男性「頑固オヤジ」と女性「世話焼きオバサン」、「助言者」「行政関係者」等を予定しており、地域住民(参加者)自らが問題解決にあたることを想定している。</p> <p>⑤ 薬カレンダーを活用して、第2層生活支援コーディネーターの普及啓発 ・薬カレンダー50枚作製</p> <p>⑥ 第2層協議体の設置のための事前協議 朝里地区と銭函地区を一体化した第2層協議体構成について、活動が活発な地域(桂岡町会・くさのね構成団体)と意見交換を行う。</p>	
南部	<p>① サロン(入船六三町会おしゃべりサロン、松ヶ枝長寿会等)や介護予防教室(からまつ・すみのえ・おくさわ・わくわく奥沢口)へ訪問し、地域課題等の情報収集や意見交換を行う。サロンについては圏域外への訪問も予定。</p> <p>② 認知症地域支援推進員との協働事業。認知症カフェ築港店を開催。 R3年度予定は5/19、6/16、7/21、9/15、10/20、12/15(5/19は緊急事態宣言下のため中止、代替え日程等は今後検討予定) 済生会ヴィレッジを活用する事で多くの市民へ認知症の啓発や周知を行う。当事者や家族が少しでも関わられるように繋げる。コロナ禍で集まれない場合においても展示などの方法にて開催予定。</p> <p>③ 民生委員定例会に参加(例年5月～7月で開催している) コロナ禍での相談件数や内容の報告を含め、地域課題の洗い出しや意見交換を行っていく。</p> <p>④ 済生会健康フェスタの多世代交流の場を開催(R3.8月又は9月開催予定)</p> <p>⑤ 認知症地域支援推進員との協働事業。学校向け認知症サポーター養成講座の開催。 圏域内の小学校・高校でのボランティア活動などへ案内を行い、依頼があれば開催。</p> <p>⑥ 生活支援コーディネーターに係る研修会や意見交換会への参加と他地域での活動視察</p> <p>⑦ 圏域内の地域活動の後方支援</p> <p>⑧ 済生会ヴィレッジの活用 移転後のスペースを活用する事で、掲示にてボランティアの募集・フードバンク・なでしこプラン・無償低額診療などの活動内容をお知らせする。</p> <p>⑨ 圏域内のサロンマップのような集いの場の紹介 地域を絞りながら圏域内での地域資源の掘り出しと、周知を行う。新たな資源の立ち上げの後方支援。</p> <p>⑩ 第1層SCと協働にて担い手養成事業の実施</p>	<p>① 第2層協議会 入船六三町会で開催予定。 新型コロナウイルスの影響で開催日未定</p>

<p>中部</p>	<p>① 移動支援プロジェクト活動立ち上げ。(銭湯・通院・買い物など)～5月、町会長と面談し検討済み。 ⇒7月頃～石山町をモデル地区とし、移動支援を中心にした共生社会の構築を目指し活動する。石山地区世帯の戸別で対面訪問してアンケート実施。(内容は一律とする) ⇒7月予定～20名の地区組長会議に参加。(アンケート結果等を踏まえ、移動支援を含めた地域課題抽出) ⇒8月以降～移動支援に関する具体的な取り組み活動始動。</p> <p>② 外部視察(8月頃)～移動支援活動を実際に行われている地域へ視察。(雨竜郡沼田町)</p> <p>③ 動画配信(9月頃)～ドローンにて市内数カ所を空撮配信。(介護予防(フレイル対策)の目的で個別でも(小グループ)散策しやすい様な仕組みを作る。</p> <p>④ 圏域内の居宅介護支援事業所へアンケート調査(7月頃)～地域情報・ネットワーク情報収集・意見交換など</p> <p>⑤ サロンや介護予防教室への訪問(適宜)～地域アセスメント実施。</p> <p>⑥ 「みんボラ」募集継続。(2名の、みんボラさんと、今後の活動も含め意見交換実施する)</p> <p>⑦ 広報誌を発行(ほたるだより)にて情報発信する。(動画配信や地域情報・活動情報など)</p> <p>⑧ 生活SCIに係る研修や見学の参加</p>	<p>① 第2層協議体設置 ・移動支援プロジェクト立ち上げ (石山町をモデル地区として開催予定)～第2層協議会7月予定</p> <p>② 地域住民や若い世代及び介護事業所などに参加を呼びかけて「今、自分たちが出来る事」を意見交換する。 (第2層協議会)11月頃</p>
<p>北西部</p>	<p>① H24年度から開始した地域版介護予防教室を拠点にした地域づくりの取り組み ・例年地域版介護予防教室の定期巡回を通して介護予防サポーター(民生委員等で構成)や参加者から地域課題等についての情報収集や地域に向けての情報発信をしているが、新型コロナウイルス感染予防のため定期巡回時期は未定。</p> <p>※地域版介護予防教室は、4月に2か所の教室が開催、4教室は新型コロナウイルス感染予防のため今後、再開予定、1教室は今年度中止の予定 ・4月～笑顔 ひまわり再開 ・今後～しおかぜ はびねす いきいき なえぼ 再開予定 ・今年度中止(わいわい)</p> <p>② 認知症カフェ(オレンジカフェわいわい店)の開催 ・例年は施設内でオレンジカフェを開催していたが、新型コロナウイルス感染予防の観点から通常通りの開催は難しい状況にある。今年度は代替え策として屋外の開催を予定し、地域版介護予防教室の参加者を対象に新型コロナウイルス感染予防対策をした上で屋外での体操等を楽しんでいただくことを計画する。水分補給については持ち帰りに対応するなど方法を検討する。</p> <p>③ 「地域密着店舗 さいわいまるしえに関する調査」 ・令和2年7月にリニューアルオープンした「さいわいまるしえ」に</p>	<p>① 介護予防サポーター交流会 (第2層協議会)⇒平成28年度より、圏域内の介護予防サポーター交流会を企画し情報共有と関係構築の場としていた(昨年度は新型コロナウイルス蔓延防止のため地域版介護予防教室(シニア元気教室)は休止、介護予防サポーター交流会も開催できず)。新型コロナウイルス感染予防の観点から、通常通りの開催は難しい状況にある。代替え策として、今年度はコロナ禍が生活や体調に与えた影響や工夫している点などを各サポーターから聞き取り調査を行い地域課題の抽出やサ</p>

<p>ついて調査予定。 (高齢者や地域住民に買い物の場を提供しているため、より住みやすい地域を作り上げていくための場所としての活用やどのような活動をされているのかを知るため)</p> <p>④ 地域向け広報紙「にこりてい」の発行(年 3 回発行し、各町会の回覧にて情報発信する)</p> <p>※生活支援コーディネーター・介護予防担当・認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チームの協働により、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、高齢者を、地域で支えていく体制を支援する。</p>	<p>ポーター同士の情報共有の機会とする。</p> <p>② オタモイ団地意見交換会 (第 2 層協議会)⇒令和元年度から2層協議体としてオタモイ団地意見交換会を第2層協議会に位置づけし、情報交換、意見交換を行ってきた。新型コロナウイルス感染予防の観点から通常通りの開催は難しい状況にある。今年度は代替え策としてオタモイ地区民生委員、オタモイ団地自治会長、オタモイ駐在所、市営住宅管理公社に出向き、困り事や地域の情報を得るために聞き取り調査を行い、地域課題の抽出や情報共有の機会とする。</p>
---	--